

ISITでは、研究顧問の先生方をお招きし、平成25年度研究顧問会議及び特別オープンセッションを開催しました。

最初にISIT次長の栗原より公益財団法人として新生ISITの概要説明がなされ、午前中の特別オープンセッションでは、ISITの研究顧問である齊藤ウイリアム浩幸氏、池澤直樹氏、池上徹彦氏の3名から産学連携や科学技術を通じて地域の活性化に関係する方々に向けて、それぞれ独自の視点からのご講演をいただきました。(内容は本ページ下段に記述)

午後からの研究顧問会議では、ISITから、5名の研究者による研究発表を行い、その中で種々の意見交換がなされました。



平成25年度研究顧問会議・特別オープンセッションの講演概要

(1)「ザ・チームのスピリット」(インテカーCEO 齊藤ウイリアム浩幸氏)

著書「ザ・チーム」の中に記したご自身の起業家ストーリーやこれからの日本に必要な「チーム」、「イノベーション」、「アントレプレナーシップ」等について

- ・アントレプレナーシップ: 起業家精神と訳されるが、新しく会社を作るのではなく、実現したい事を実行(現実化)することであり、「パッション」と「ビジョン」が必要
 - ・日本のイノベーション(科学技術面)は問題ない: 多数のノーベル賞受賞者があり、受賞者の海外流出はほとんど無い
 - ・「チーム」と「グループ」の違い: 日本は、同質なメンバーによる「グループ」での改善は得意だが、新規の技術(サービス)の立ちあげ(イノベーション)には、異質なメンバーによるフラットな「チーム」が必要
 - ・日本でチームがうまくできない理由: 上司と部下、同僚間におけるコミュニケーションに問題がある(失敗や突出を恐れて、フラットな議論ができない)
- 等のお話がありました。

(2)「有機ELが生み出す技術の絆」(野村総合研究所 チーフ・インダストリー・スペシャリスト 池澤直樹氏)

一見無関係に見える技術分野間の関係性を具体的な技術要素で顕在化し、新たなイノベーションの種を発見していく手法として

- ・特許に共起する技術用語の主成分分析: 文献群に出現する全ての単語(技術用語)間のあるべき距離を一定の精度で再現し、平面上に自動配置する。単語間の距離が近いほど関連が強い(一緒に使われる技術)
 - ・サーモグラフ: 主成分分析で作成されたマップの上に文献群をプロットし、重なりの高さを温度表示(色温度)したもの
 - ・パテントマップ: 出願人(出願企業)名×技術(課題・用途・要素技術)でプロットした表(マップ)であるが、専門家以外には分かりづらい
 - ・ネットワーク分析: 共同出願した出願人(出願企業)やを枝(ノード)で結んでネットワーク図として表示(企業間の関係)、技術用語を枝で結んだネットワーク図(技術分野間の関係)等を用いて、技術分野間の間接的な結びつき(架橋ノード)も分析可能
 - ・技術チェーンの延長と選択: リンクの延長や仮設のノードを用いる手法等をご紹介します。
- また、技術の専門家が他者とコミュニケーションをする際に「マクロに見る」、「取り付く島を与える」、「専門分野以外についても発言して頂く」ことで、新たな視点を獲得、新たな企業連携・産学連携に繋がる可能性があるということでした。

(3)「未知への挑戦と人類の倫理(Ethic) 宇宙開発委員会で学んだこと」

(文部科学省科学技術政策客員研究官 元・文部科学省宇宙開発委員 池上徹彦氏)

文部科学省宇宙開発委員として学んだことについて

- ・次々と疑問が湧いてくる宇宙科学、未知への挑戦
 - ・生物は生存競争が基本、生き残りのための共同体づくり
 - ・宇宙の時間と地球の時間: 地球誕生から現在まで(46億年)を1年とすると、人類誕生は5分前
 - ・「いずれヒトは地球を離れる」: 海外(西洋)では民族大移動(文明進化と闘争の歴史)、新地開拓の歴史(ローマ、トルコ、大航海時代、西部開拓など)、日本では砂漠・荒地が無い、厚い土壌に恵まれている、他民族からの侵略経験が無い
 - ・太陽系有人探査は世界共通の目標へ: 対立先進国間で共有できるテーマ
 - ・米英: 民間ベンチャー企業の宇宙機器産業への参入
 - ・日本: 新宇宙基本法(平成25年1月25日)、文部科学省宇宙開発委員会の廃止と内閣府宇宙戦略室の発足、科学技術から産業振興へ
 - ・米国: イノベーション政策ベンチャー活用、大統領と議会のネジレによる宇宙政策不透明
 - ・欧州(EU): 欧州宇宙機関(ESA)へ加盟国が出資、中小企業での開発
 - ・ロシアのソユーズは順調であるが、中国の総合力はロシアを超える
 - ・日本の宇宙開発への提言: 宇宙は国家予算(税金)による戦略的巨システム、国際外交での国益確保、起業家支援体制強化、継続性のある政策(官僚・政治家)、ヒト(未知への挑戦精神「パッション」を持つ人材育成)
- 等のお話がありました。